大阪市教

2026年 1月8日
VOL. 631
（一部30円。 購読料は組合費に含む）

明けまして
おめでとう
ございます

「建国記念の日」不承認
終らない戦争のトラウマ
～子・孫への連鎖～
2月11日(水･休)13:30
たかつガーデン8階

発行　大阪市学校園教職員組合　大阪市中央区法円坂1－1－18（大阪市教育会館7階）
TEL 6910-8700 https://osaka-shikyo.org/
FAX 6910-7990 E-mail o-sikyo1@sea.plala.or.jp

人間社会を支えるケア
物作りっていいなあ 次回も
わくわくひろば

女性部主催の「わくわくひろば」を12月20日開催しました。15人の参加でした。

まずは、「人類の歴史を紡いできたのは、仕事をしてきた多くのお母さんだったり、ケアを引き受ける人たち」と題して、宮城委員長によるミニ学習。家事などの「ケアという営みは、人間社会を支える」根本であるにも関わらず、その大半を担ってきた女性がどれだけ虐げられてきたか。労働時間短縮は必須です。

そして、「こどもたちといっしょに楽しむ科学工作」。三木書記次長が、教えるときのポイントも押さえながらわかりやすく楽しい工作を伝授。夢中になって、折り紙を折って出来上がったものを飛ばしたり、不思議なコマをまわして「うわ！黄色が見えた！」と感嘆の声を上げ簡単なのに大興奮できて大満足。

参加者の感想です。「宮城先生のお話、大変勉強になりました。私以外にも仕事が原因で辛い状況になった人がいるのだ…と初めて知りました。三木先生の実践講習会も楽しく早速学校でやってみます」「何してんねんやろと思う日々、手を動かして楽しかった」。

やっぱり物作りっていいなあということで次回も新学期に向けた楽しい掲示物などを作って交流。3月20日です。ご予定ください。

松尾貴史
日本人ファースト恥ずかしい
ちょっと違和感

大阪革新懇（進歩と革新をめざす大阪の会）は12月6日、結成45周年講演と文化のつどいを開き300人が参加しました。俳優の松尾貴史さんが講演しました。

「松尾貴史のちょっと違和感」（毎日新聞7月13日）は、「最近、『日本人ファースト』という言葉が声高に叫ばれ、よく耳にするようになった。10年くらい前ならば恥ずかしくて声に出せなかったかもしれないと思うのだが、なぜか今、奇妙な広がりを見せている。…日本の国内には、数百万人の外国人、移民、難民、在日外国人が暮らしているし、外国人観光客も多く滞在している。このスローガンは、その人たちへの支援や権利の保護を軽んじるということにつながる危険性がある」と語りました。

松尾さんは講演で「疑う」の反対は「信じる」ではなく「疑わない」であり、疑い、検証することの大切さを話しました。ネット情報の「外国人が鹿をいじめている」をなぜ疑わないのか。鹿は神獣であり奈良選出の首相が。奈良県の観光業は大打撃を受けている。

「人口減少の地方は東京都に見習え」と発言し、鳥取県知事が反論。東京都の出生率は0・96、長年の政権党の責任ではないのか。企業献金は賄賂。教育、給食、消費税軽減を要求すると、財源はどうすると言うのに、防衛費（軍事費）の財源は問わない。

維新の会は、文楽、大阪市音楽団など大阪の文化を否定し、お金で計算できないものを軽視。「身を切る改革」ではなく身内を太らせている（藤田代表の秘書の会社に公金を支出）。

松尾さんは参加者の質問に答え、「安倍2次政権から書くネタに困ることはない」と語りました。

西晃弁護士が、違和感を表明し互いに頑張ろうと閉会あいさつしました。

不登校 市中学生1割
テスト漬競争教育やめよ

大阪市の中学生の不登校率が24年度9・55％となりました。23年度は9・61％。「中学生の1割が不登校」の状態は変わっていません（全国は過去最多）。

大阪市対策連絡会議は25年11月、大阪市会に陳情「不登校急増（中学生4917人、9・61％）の原因、テスト漬けの競争教育をやめ、少人数学級実現、『隠れ教育費』軽減を求める陳情書」を提出しました。12月5日教育子ども委員会で審査され「継続して審査」の扱いとなりました。

陳情を採択するよう求めた山中智子議員（共産）は、「子どもがテストで疲れている」という保護者の声や「テストのための勉強でおもんない」と学校へ行かなくなった子どもの声を紹介し、「テスト漬けの競争教育をやめること」（陳情第1項）を求めました。

教育長の「各種調査（テスト）結果を活用し、一人ひとりに応じた指導」との答弁に対して、山中議員は、本当に一人ひとりに応じた教育を進めるためにはクラスの人数を減らすことが必要と強調し、少人数学級の実現を国に求めるだけでなく、市独自の取り組みを進めるよう求めました。

就学援助制度や修学旅行費の保護者負担について、維新、自民市民の議員も質疑に加わりました。

不登校生在籍比率（％）

中学校

年度	全国	府	市
2022	5.98	6.17	8.62
2023	6.17	6.76	9.61
2024	6.79	6.93	9.55

小学校

2022	1.70	1.70	1.65
2023	2.14	1.97	1.97
2024	2.30	2.13	2.05

24年度市不登校人数
小2,294人、中4,839人

障教研 障害児教育研究会に来ると
パワーがでます！

特別支援学級がなかなか増設置されない、通級指導教室開設があまりに急すぎて現場はついていけていない、巡回通級となり期待していた支援体制ではない、など教育委員会の形合わせ、数あわせの姿勢が許せません。

研修も多くなりましたがマニュアルのようで、子どもの姿が見えてこないものばかりです。子どもの素敵な姿を語り合う場こそ、今求められています。

大阪市教障教部の取り組みである障害児教育研究会（障教研）を12月12日に大阪市教育会館にて開催しました。今回は、特別支援教育サポーターの参加もあり、職場や子どもたちの様子を活発に交流することができました。

子どもたちの実態に合わせて学習を組み立てていく特別支援学級ならではの魅力が語られる一方で、障害児教育を大切にする職場作りの難しさも話題になりました。特別支援教育サポーターからは、働き方や業務内容の矛盾点も語られました。

障害のある子どもたちの発達保障には、さらなる条件整備と発達を保障する教育実践の研究こそが今必要ではないでしょうか。

参加者は、「日々、これでいいのかと自問自答しながら、子どもを真ん中にした学校をという思いで、子どもたちや同僚と向き合っています。心が折れそうになる時もありますが、障教研に来ると、このままでいいんだとほっとすることができます」と語ります。

子どもの事をおおいに語り合い、そして悩みも出し合える障教研を支えに、パワーをため、職場をよくするために、子どもたちを守るために、仲間と声をあげていきましょう。

仲間が増えた！
一緒に相談し職場を変えよう
差額10万円以上！組合の成果

ハラスメントで悩んでいたAさん。職場の民主化が必要と考えていた組合員のBさんが「私も相談したよ」と声をかけ、一緒に組合の書記局に。話をする中で「私も入ります」と加入を決めました。

元組合員のCさんは縁あって再び講師として働くことになりました。元同僚の組合員に近況報告をし、「組合にももちろん入ります」と加入を伝えました。

さて、みなさん12月の給料明細を確認しましたか？1万円以上の月給アップ、4月に遡っての差額も10万円以上支給されました。一時金も上がりました。組合の交渉の成果です。今年も組合の存在を職場に広く知らせ、大胆に加入をすすめましょう！